

## ティナ スティリアンド ギリシャ出身の元キリスト教徒

:

明:イスラ ムへの憎 を植え付けられてきたギリシャ人女性が、イスラ ムに改宗します。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ティナ スティリア

日 28 Sep 2015

集日 28 Sep 2015



私はギリシャのアテネ市で、ギリシャ正教会の家庭に生まれました。父の家族はトルコのイスタンブールで人生の大半を過ごし、父はそこで生まれ育ちました。彼らは裕福で教員もあり、ムスリム国で暮らす殆どのキリスト教徒たち同様、彼らもその宗教を持していました。

あるとき、トルコ政府がギリシャ国民の大半を国外退去にし、その家屋事を押さずという決定を下しました。よって父の家族は手ぶらでギリシャに帰国せざるを得ませんでした。これが、トルコのムスリムたちによる彼らへの仕打ちであり、彼らによれば、このことが彼らのイスラムに対する憎悪を正当化させたのです。

母の家族はギリシャとトルコの国境に位置する に住んでいました。トルコの侵攻によって は占 され、家々や き ちにあい、生きるために彼らはギリシャ本土に逃れました。彼らがトルコのムスリムたちを憎 するさらなる理由です。

ギリシャは400年以上に渡りトルコ人から占 され、私たちはギリシャ人に するあらゆる 犯罪がイスラ ムの 任であることを教えられてきました。トルコ人たちはムスリムであり、彼らの犯罪は彼らの宗教的な思想の反映であるということでした。

このことは、ギリシャ正教会（ギリシャでは政教一致体制が られています）による、彼らの宗教を保 し、人々がイスラ ムへ改宗することを妨げるための、ギリシャ人の心にイスラ ムへの憎 を植え付ける非常に狡猾な 画でした。

このように、数百年 に渡って私たちは 史と宗教の 物からイスラ ムという宗教への憎 を抱き、嘲笑することを教えられてきたのです。

、私たちの 物の中ではイスラ ムは宗教ではなく、ムハンマド（彼に平安あれ）は 言者でもないのです。彼はユダヤ教とキリスト教から 定や法を寄せ集め、そこに自らの 想を加え、世界を征服した非常に 明晰な指 者 政治家ということになっています。

私たちは学校で、彼と彼の妻たち、そして教友たちを揶揄することを学びます。 在、メディアで流される彼に するあらゆる 刺画や中 は、 に私たちが授 で学び、 を受けていたことなのです。

アルハムドゥリッラ（神に えあれ）、アッラ は私の心をお守りくださり、イスラ ムにする憎 は入り みませんでした。

他のギリシャ人たちも、正教会による宗教的 を双肩に担わされた状 から け出すことに成功しています。彼らはアッラ の御意によって 目、耳、心を き、イスラ ムがアッラ による真の宗教であり、ムハンマドが真の 言者かつ最 の 言者であることを理解しています。

ムスリムは、アッラ が人 にアダムを始めとしてノア、アブラハム、イシュマエル、イサク、モゼ、そしてイエス（彼ら全 に平安あれ）といった使徒を遣わせて人 を いたことと、さらにアッラ の最 の教えは 言者ムハンマド（彼に平安あれ）に 示されたことを信じています。

私の が特に宗教的ではなかったことは、大きな助けとなりました。彼らは殆ど宗教の 践はせず、私を教会に れて行ったのは 婚式や葬式といった 会だけでした。

父が宗教から ざかったのは、彼が日常的に目 していた司祭たちの の腐 でした。彼らは 神や善行について いておきながら、同 に教会の基金からお金を盗んだり、 を 入したり、メルセデス ベンツを所有したり、同性 行 を めたりしていたのです。そうした者たちが、宗教の な代弁者として私たちを き、正し、神へより近づけてくれるというのでしょうか？ 父はそうした者たちに 想を尽かし、とうとう 神 者となったのです。

教会は彼ら自身の行 によって、最低でも私の国では大半の支持者を失いました。イスラ ムでは、宗教におけるシャイフあるいは学者たちは な情 、そしてアッラ のご 悦を得るという目的のみによって他者を助け、 き、 への道を 得しようと しているのです。

キリスト教において司祭になるということは、高 入の を得ることです。こうした内部の腐 は、キリスト教徒として生まれたたくさんの若者たちを宗教から ざけ、彼らに他の何かを探求させることにつながっています。

10代の の私は をこよなく しており、キリスト教に 足しているわけでもなければ 信を抱いているわけでもありませんでした。私は神を信じ、怖れ、 していましたが、その他の物事によって混乱させられている状 でした。

私は身近なところから探索を始めましたが、イスラ ムにたどり着くことはありませんでした（おそらく、私の生まれ育った背景がそうさせたのかも知れません）。

アルハムドゥリッラ 、神は私の魂にご慈悲をくださり、私は暗 から光へと、地 から天国（神の御意であれば）へとお きになりました。



そこには一部のムスリム移民がいましたが、彼らはより 的な将来を求めてギリシャに住み着き、西洋の生活スタイルへの憧れから自らを墮落させたような人たちだけでした。その 果、彼らは宗教に わないばかりか、完全に道を踏み外したような人々でした。

私はムスリムとして生まれなかったため、イスラ ム的教育を受けておらず、イスラ ムの を果たすことは、私にとって信じ いほど困 でした。

私と夫はカレンダー を用いて礼 や断食を行い、そこではアザ ン（ムスリムによる礼 への呼びかけ）を くこともできなければ、援助してくれるイスラ ムのウンマ（ムスリム共同体）もありませんでした。日 が つにつれ、私たちは逆行しているように感じました。私たちの信仰心は 少し、周りの荒波に み まれてしまいそうでした。

そのため、娘が生まれたとき、私たちの魂と娘の魂を救うため、神の御意であればムスリム国家に移住することを 断しました。娘を西洋的な 境で育てることから彼女が自らのアンデンティティを 失してしまわないよう望みました。

アッラ に感 あれ。アッラ は私たちをお きになり、私たちが甘美なアザ ンの言 を耳にすることができ、知 、そしてアッラ とその 言者ムハンマドへの 情を 加させることのできるムスリム国家に移住する 会を与えてくれました。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2771>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。